

夫「しいたけご飯を炊け！実家はしいたけご飯だった！」私(ええ...)→夫実家へ連れて行かれたが、トメ「そんなご飯出した事ないよ(困惑)」→夫が美味しい美味しいと食べていた物は...！

私...坂口友恵 20代 新婚 普通の会社員

夫...翔 20代 普通の会社員

義両親...義父は私と夫が会う数年前に他界 義母はずっと専業で現在は週2のパートと義父の遺した保険金などで細々と1人暮らし

1コマ

私の名前は坂口友恵。

数か月前に夫である翔と結婚。

幸せな新婚生活...なのだが、訳の分からない事ですれ違いが生じてしまっている。

2コマ

夫「しいたけご飯を炊け！実家はしいたけご飯だった！」

私(ええ...また始まった...)

結婚前にも私の料理を食べた事があった夫は新婚1週間くらいな毎日「ウマイウマイ」とご飯を食べてくれていたのだが...

3コマ

ある日突然「ふと思ったんだけど、何でしいたけご飯が出てこないんだ？」と言い始めたのだ。

私「しいたけご飯？炊き込みご飯の事？」

私がそう聞き返すと夫は「違う！」と叫び、そんな事も知らないのか？とでも言いたげな目をして

夫「確かに見た目は炊き込みご飯だけど...母さんの炊いたあの飯は絶品なんだ。作れないのか？友恵は！」

と。

4コマ

そこそこ料理好きな私はそう言われると黙ってられない。

色々調べて作ってはみたがどれも夫は「全然違う」「分かってないな！」。

母に聞いてみても「しいたけの入ったご飯じゃないの？」と言われるだけで、謎のまま時間だけが過ぎていった。

5コマ

夫に詳しく聞こうとしても「そんな事もわからないのか?!」の1点張りで話にならない。

幸せな新婚生活の筈が一転顔を合わすと「しいたけご飯」の事で言い争う羽目に...

私(何なの?「しいたけご飯」って...謎過ぎるわ...)

6コマ

夫から聞いた情報を断片的につなぎ合わせていくと...

- 1.少し黄色味がかかった色をしている気がする（おダシ？）
- 2.白ご飯に比べると非常にマイルド
- 3.しいたけの食感がこれまた硬めで絶妙 少しほろ苦いらしいがやはりわからない。

7コマ

そんな「しいたけご飯騒動」がしばらく続き...遂に夫は夫「食べたい飯が食えない...この結婚は失敗だったかもな。」などと言い始め、挙句の果てには...

「職場の女の子で「しいたけご飯」を炊いてくれる子がいたんだ！だからお前は離婚してくれ！」と言ってきた。

8コマ

私「はあ?!もしかして...浮気してたの?」

夫「お前のせいだぞ?お前がしいたけご飯さえ作れたら...。」

夫は自分の不貞すら私のせいだと言い始めて話にならず。

私「...わかりました。離婚しましょう。」

9コマ

夫「お前のせいなんだから慰謝料とか払わないぞ!結婚生活も短いし財産分与もないだろ?」

私「かまいません。でも1つだけ条件があります」

私は...どうしても知りたかった。ここまで探してもわからなかった「しいたけご飯」の正体を。

私「しいたけご飯って何なのか...最後にお義母さんの炊いた物を見せて欲しい」

10コマ

夫が出してきた夫の部分記入済みの離婚届に夫の目の前で署名しながら言うと...

夫は一言分かったと言い義母に電話を始めた。

夫「今から来てもらってもいいって」

というので私運転の車（夕食時だったので夫は既にお酒を飲んでいた）で向かった。

11コマ

到着すると義母は「アタシは丁度今から食べる所なの!」と食事開始。

目の前に出て来たご飯は...なるほどちょっと黄色いような気がした。

夫「ウマイ!やっぱ母さんの飯は最高だよ!」

夫は一瞬で一杯目を平らげてお替りしていた。

12コマ

私にも食べるように勧めてくる夫。

しかし...なんだか私には引っかけた。

私（これ...「しいたけ」じゃない...?）

私「あの...お義母さん?これって...「しいたけご飯」っていうご飯なんですか?」

13コマ

恐る恐る聞いた私。

夫はさも「だよな!母さん」と言いたげな顔で3杯目。

義母の返答は...

「「しいたけご飯」?何それ。」だった。

14コマ

夫「え?だってこれ...こりこりのしいたけ入ってる飯だろ?あ!もしかしてきくらげの間違
いだった?」

義母「アンタ何いってんの?これ普通のご飯よ?」

夫「は?」

私「...もしかしてとは思いますが...米びつ見せてもらっていいですか?」

15コマ

義母に場所を聞き米びつの傍へいく私。

米びつのそばに置いてあるまとも買いしているらしい茶色の米の袋から聞こえる...カサカサ
という音。

私の予感は的中した。

私「これ...黒いの虫ですよ」

16コマ

夫「え?!嘘?!」

義母「ええ?!虫?!」

私「はい。米につく虫です。成虫は黒いんですよ!」

顔色が青いを通り越して白くなった夫と...そんな筈ない!と怒り始めた義母。

17コマ

義母「ずっと知り合いの農家さんから1年分まとめて買ってるのよ?!古い分から食べて
ちゃんと回してるの!失礼な事言わないで!」

「それにお米は腐ったりしないでしょ?乾いてるじゃない。古いお米は安くてお買い得
なの!」

私「...確かにちゃんとした米用の冷蔵庫とかに保管しれば大丈夫だと思いますけど...」

試しに米びつ横にあった一袋を開けてみると...絵にも描けない惨状だった。

18コマ

目のいい夫にはそれがわかったらしく...どこかへ走っていったが...

義母は「白いお米じゃない!」と言う。なので私はカップで少量掬い取って見せた。

私「動いてませんか?この虫って成虫になると黒いですけど幼虫の時は...大きき米そっくりですよ?」

義母絶句。

19コマ

「いつからだ!?なんてももの食わしてたんだよ!」と義母にキレ始めた夫を置いて...私はさっさと車で帰宅。

荷物をまとめて再び車で今度は自分の実家へ帰った。

両親に何か言われるかも...とも思っていたが、以外な事に普通に迎えて離婚の件も「そうか」と言っただけだった。

20コマ

私「なんで?理由とか...聞かないの?」

母「理由なら...「しいたけご飯」だか何だかの事でしょう?アナタ聞いてきてたしそれに...」

私「それに...何?」

母「お父さんと翔さんって、同じ会社の上司と部下だったでしょ?あの人会社で「部長の娘さんって料理もろくに知らないんですね」って言ったみたいで...」

21コマ

父は既に怒り心頭だったらしい。

夫からは何も連絡が入らないまま次の日出社前に離婚届をだし、サックリ夫には「元」が付いた。

短い結婚生活だったが...悔いはなかった。

私(お相手もいるみたいだったし?私に何か言ってくる事はないでしょ!)

22コマ

そう思っていたのだが...数日後元夫は会社前で待っていた。

元夫「しいたけご飯の謎が解けてさ...会社で作れる子いるっていったろ?その子の家行ってみたら超ゴミ屋敷でさ...」

「あの時褒めまくったせいで「奥さんと離婚したんでしょ?毎日作ってあげる!」って言われてるんだ...助けてくれ!!」

私「美味しかったんでしょ?毒じゃないし食べてあげれば?」

23コマ

元夫「虫だぞ?って言ったんだけど「この前あんなに喜んでくれたのに?!」ってキレてきてさ...子供までできたとかいうし...」

私「もう他人の私にリア充自慢？爆発したら？」

それだけ言って私はスルーし、丁度タクシーをひろって乗ろうとしていた仲の良い同僚女性に「乗せて！お金払うし！」と言って同乗。

さっさとその場を去った。

24コマ

それ以降元夫に会ってはいない。

同じ会社に勤めていた父によると、お相手の女性が元義母に気に入られたらしく同居という事で結婚。

元々女性社員の間でその女性は「不潔」だと噂があったようで...

元夫までそういう目で見られるようになりたまらず退社したとの事。

25コマ

父「というか...弁当がな。ずっと例の飯で。「これ以外食べないで」って小遣いもなかったらしい」

私「...それは悲惨といふかなんといふか...だけど仕方ないんじゃない？」

基本的に米にわく虫は特に害はないようだし、たんぱく質だと思えば...まあ私は食べたくはないけど。

あれだけ私をバカにした報いだ！と思っているので同情の余地はない。